

不思議現象を信じる理由 (1)

川上正浩¹・小城英子²・坂田浩之¹

¹大阪樟蔭女子大学心理学部 ²聖心女子大学文学部

抄録：心霊現象や占い、宇宙人・UFO、超能力など、現在の科学ではその存在や効果が立証されないが人々に信じられていることのある現象を総括して“不思議現象”と呼ぶ。本研究では、代表的な不思議現象（血液型による性格診断、宇宙人の存在、超能力の存在、占い、霊の存在、神仏の存在）を取り上げ、それらを信奉する、あるいは信奉しない理由について検討することを目的とした。それぞれの対象について、信奉を「はい」か「いいえ」かの2件法にて尋ね、これに続いて、その理由を自由記述にて求めた。大学生161名の信奉あるいは非信奉の理由として挙げられた語句をテキストマイニングを用いて分析し、信奉者と非信奉者との違い、特に依拠するメディアの差異について考察した。

キーワード：不思議現象、信奉、理由、自由記述

問題と目的

“不思議現象”とは、心霊現象や占い、あるいはUFOや超能力など、現在の科学ではその存在や効果が立証されていないが、人々に信じられていることのある現象である（菊池、1998）。不思議現象として扱われる対象はさまざまであるが、一般的には占い、UFO（Unidentified Flying Object＝未確認飛行物体）・宇宙人、霊、超能力、血液型性格判断、前世・輪廻転生、たたり、神仏の存在・願掛け、死後の世界、予言、迷信・縁起、UMA（Unidentified Mysterious Animal＝未確認動物）、コックリさんなどがある（小城・坂田・川上、2008）。菊池（1995）は、不思議現象の特徴として、①現代の科学知識では説明がつかない（と思われるような）不思議な現象の存在を疑うことなくすぐ信じる、②面倒な科学的方法論を軽視し、神秘主義や心霊主義から現象を説明したり、宇宙人や霊能力、超越者の存在を既定の事実のように設定したりして、説明が飛躍する、③科学的な方法論で説明したとしても、その方法論に欠陥

がみられ、その理論は既存の科学知識体系と大きく矛盾する、の3点を挙げている。すなわち、占いやUFO・宇宙人、心霊などの現象そのものが“不思議現象”と定義されるのではなく、それを不思議だと感じる人々の認知・解釈とがセットになって“不思議現象”が構成されていることが指摘されている。

不思議現象信奉については、心霊現象や迷信・格言といった面からのアプローチは古くから見られるが（川村、1956；岡本、1988）、日本で研究が盛んにおこなわれるようになったのは1990年代後半である（小城・坂田・川上、2006）。

不思議現象の中でも、血液型性格判断に関しては実証的研究が多く認められるが（たとえば佐藤、1993；渡辺、1994；上瀬・松井、1996；坂元、1995など）、信奉メカニズムを解明するにとどまらず、“楽しい”“好き”といった娯楽的な機能や、“コミュニケーションに役立つ”といった関係促進機能も有していることなどが明らかにされている（松井・上瀬、1994）。一方で、UFOや霊、超能力など、血液型性格判断以外の不思議現象に

関する先行研究では、おおよそ信奉行動のみが測定され、その規定因として不安傾向や Locus of Control などの個人特性を投入して双方の相関関係を測定するという構造になっており、不思議現象信奉に関連する認知や感情、またはその心理的効用や機能に関しては扱われていない。

この点に注目し、小城・坂田・川上（2008）は、不思議現象に対して、信奉行動だけでなく認知や感情をも含めた包括的な態度を測定する尺度の作成を目指し、不思議現象に対する態度尺度 APple (Attitudes towards Paranormal Phenomena Scale) を構成している。APple においては、因子分析の結果から、占いやおまじないを活用し、信奉する“占い・呪術嗜好性”，神仏や心霊や前世を信奉する“スピリチュアリティ信奉”，超能力や UFO などをエンターテイメントとして楽しむ“娯楽的享受”，不思議現象に懐疑の目を向け、その神秘性を否定しようとする“懐疑”，UFO や超能力や占いに恐怖を感じる“恐怖”，心霊現象の体験に関する“霊体験”の 6 つの下位尺度を構成している。

川上・小城・坂田（2009）は、代表的な不思議現象（血液型による性格診断，宇宙人の存在，超能力の存在，占い，霊の存在，神仏の存在）を取り上げ、自由記述に基づいてそれらを信奉する、あるいは信奉しない理由について検討を行っている。自由記述に出現する語句の頻度をカウントした結果、血液型による性格診断や霊においては、自分の経験を信奉の判断基準にしていること、神仏の存在に関しては、身内の信奉が語られることによって信奉が受け継がれていること、信奉の対象領域ごとに、その態度を構築する根拠となるメディアが異なっている可能性などが示唆された。

しかしながら、川上他（2009）は、調査対象者が女性に限られており、またその人数も比較的不多い。そこで本研究では、川上他（2009）のデータに、追加のデータを加え、データ数を十分なものとしたうえで、不思議現象に対する信奉の理由

についてあらためて検討することを目的とする。

具体的には、川上他（2009）で調査対象とされた代表的な不思議現象を取り上げ、それらを信奉する、あるいは信奉しない理由について検討することを目的とする。様々な不思議現象を信じているか否かとともに、信じている（いない）理由を自由記述にて求める。信じている理由や信じていない理由としてどのような語句が挙げられるかを検討することにより、不思議現象信奉のメカニズムについて吟味する。

方 法

調査参加者

奈良県の私立 O 女子大学、愛知県の私立 N 大学に所属する大学生 161 名（男性 36 名，女性 125 名，平均年齢 19.7 歳；SD=2.0）が調査に参加した。

調査内容

質問紙調査法が用いられた。不思議現象とされる現象の中から、“血液型による性格診断”，“宇宙人の存在”，“超能力の存在”，“占い”，“霊の存在”，“神仏の存在”の 6 つの対象が選択された。これら 6 つの対象それぞれについて、信奉（たとえば「あなたは血液型による性格診断を信じていますか？」）を「はい」か「いいえ」かの 2 件法にて尋ね、これに続いて、その理由（たとえば「あなたが血液型による性格診断を信じている（あるいは信じていない）理由を自由に記述してください。」）の自由記述を求めた。この調査内容は、川上他（2009）と同様のものであった。

手続き

調査対象者は、心理学系授業のコースクレジットとして調査に参加した。講義時間中に担当教員が質問紙を配布し、個人ペースで回答することを求めた。回答時間は約 15 分であった。

結果と考察

信奉率に関する分析

本調査における、それぞれの信奉対象に対する信奉率を図1に示す。本調査においては、全体として信奉率は50%程度であったが、宇宙人と霊については、高い信奉率が示された。川上他（2009）と比較すると、血液型による性格診断と霊の存在に対する信奉率が10%程度低く、これは、血液型による性格診断に対する信奉や霊の存在に対する信奉が、対象とする集団によってばらついている可能性を示唆している。他の対象に対する信奉率については、川上他（2009）と大きな違いは認められなかった。

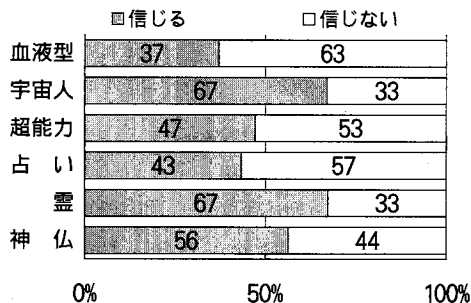


図1 本研究における各対象に対する信奉率 (%)

血液型による性格診断、霊の存在に対する信奉の、対象とする集団による差異を詳細に検討するため、本調査におけるデータを男女別に分けて分析した。その結果を図2および図3に示す。 χ^2 検定により、男女差について検定を行ったところ、血液型による性格診断、霊の存在に対しては、男性より女性で信奉率が高いことが示された（それぞれ $\chi^2_{(1)} = 10.83$, $\chi^2_{(1)} = 12.17$, $p < .01$ ）。また、占い、神仏の存在についても同様に男性より女性で信奉率が高いことが示された（それぞれ $\chi^2_{(1)} = 7.70$, $p < .01$, $\chi^2_{(1)} = 4.03$, $p < .05$ ）。その他の信奉対象（宇宙人の存在、超能力の存在）については、男女による信奉率の差は認められなかった（いずれも $\chi^2_{(1)} < 1$, n.s.）。

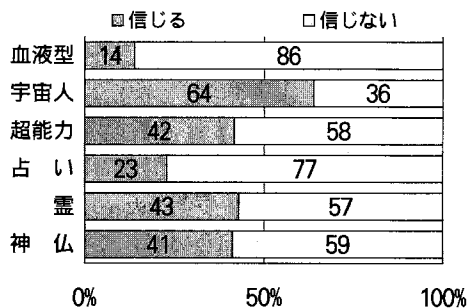


図2 本研究における各対象に対する男性の信奉率 (%)

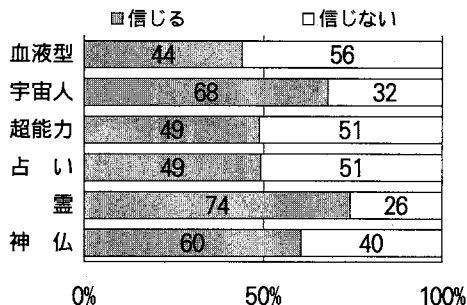


図3 本研究における各対象に対する女性の信奉率 (%)

またこれら信奉相互の相関について検討するため、 ϕ 係数を算出した（表1）。

表1 各対象に対する信奉間の相関（ ϕ 係数）

	宇宙人	超能力	占い	霊	神仏
血液型	.029	.062	.455 **	.253 **	.099
宇宙人		.295 **	.062	.334 **	.074
超能力			.196 *	.377 **	.110
占い				.253 **	.209 **
霊					.375 **

* $p < .05$ ** $p < .01$

霊の存在に対する信奉は、他の全ての対象に対する信奉と有意な相関をもつことが示された。また、占いに対する信奉は、宇宙人の存在以外の対象との間に有意な相関を示していた。特に占いに対する信奉と血液型による性格診断に対する信奉との間には比較的強い相関があることが示された。他には超能力の存在に対する信奉と宇宙人の存在に対する信奉、霊の存在に対する信奉と神仏の存在に対する存在との間に相関が認められた。この超能力の存在に対する信奉と宇宙人の存在に対する

る信奉との間の相関については、川上他（2009）においては認められていない。信奉理由の自由記述を見ると、宇宙人の存在そのものに関しては「多くの星が存在しているのだから、生命の存在する可能性は0ではない」といった、ある種のクリティカルシンキングが信奉（存在の肯定、あるいは存在可能性の肯定）につながることから、一般的に不思議現象とされる宇宙人（「UFOに乗って地球を侵略に来ている宇宙人」あるいは「政府がその存在を隠そうとしている宇宙人」等）に対する信奉と、今回測定された信奉とは異なっている可能性が示唆される。同様に超能力の存在に関しても、「世界にはこれだけたくさんの方がいるので、中には我々の知らない“超能力”を持っている人も、いないとは言いきれない」といった考え方で、その存在に対する信奉が生まれていると考えれば、これらの信奉間に相関が認められることは解釈可能である。

また、血液型による性格診断について、占い、霊の存在に対する信奉との間に有意な相関が認められたのみであった。これは、血液型による性格診断が、信じられるにしろ信じられないにしろ、日本の（学生）社会においては一種の文化として機能しており、我々研究者が考えるような“不思議現象”としての枠組みから外れたものとして捉えられていることによるのかもしれない。そして、こうしたところこそ、不思議現象信奉の本質的な問題点が存在しているとも考えられる。

続いて男女別に、信奉間の相関について ϕ 係数を算出した（表2および表3）。男女で共通して相関が認められるのは、宇宙人の存在と超能力の存在、血液型による性格診断と占い、宇宙人の存在と霊の存在、超能力の存在と霊の存在、霊の存在と神仏の存在である。これらの信奉間の相関については、性別を問わず安定したものであることが示唆される。つまり、現代大学生において、宇宙人、超能力、霊は、比較的近い位相に位置する存在であり、一方で、血液型による性格診断と占

表2 男性における各対象に対する信奉間の相関（ ϕ 係数）

	宇宙人	超能力	占い	霊	神仏
血液型	.245	.179	.357 *	.034	.010
宇宙人		.579 **	.087	.488 **	.060
超能力			.041	.581 **	.150
占い				.074	.099
霊					.340 *

* $p < .05$ ** $p < .01$

表3 女性における各対象に対する信奉間の相関（ ϕ 係数）

	宇宙人	超能力	占い	霊	神仏
血液型	.084	.093	.437 **	.258 **	.078
宇宙人		.219 *	.058	.303 **	.113
超能力			.242 **	.313 **	.089
占い				.285 **	.201 *
霊					.353 **

* $p < .05$ ** $p < .01$

いとが近い位相に位置していることが窺われる。

理由に関する分析

次に、信じている（いない）理由の自由記述について、誤字や表記を修正した。この際、方言や誤った表現（ら抜き言葉等）についても修正を施した。修正した語句の例について、表4に示した。

この処理を施したうえで、テキスト型データ解析ソフトウェア Tiny TextMiner v0.64 を用いて、信奉者と非信奉者のそれぞれ（以下、信奉群、非信奉群と呼ぶ）で、どのような語句の出現件数が多いかを検討した。この際、表5に示した語句を“キーワード”と定義した。この処理は、通常では分かち書きされてしまうが、今回の調査対象者の記述において重要と思われる語句を、分かち書きせずにカウントするための処理である。また、同義と見なされる語句を、同一の語句としてカウントするよう、表6に示すように同義語の定義を行った。Tiny TextMiner において、以上の処理を施した上で、それぞれの対象領域について、信奉群、非信奉群それぞれで、出現件数が3件以上

表4 修正を施した語句の例

修正前	修正後
「いてる」	「居る」
「おらん」	「居ない」
「うち」(一人称)	「私」
「感じやけど」	「感じだけど」
「信じてたい」	「信じていたい」
「曲げれる」	「曲げられる」
「信じれる」	「信じられる」
「ほんとに」	「本当に」
「絵にかくような」	「絵に描いたような」
「TV」	「テレビ」
「2D」	「二次元」
「いい結果」	「良い結果」
「絵を書いた」	「絵を描いた」
「人間の能」	「人間の脳」
「わかる」	「判る」
「言いきれない」	「言い切れない」

表5 Tiny TextMiner においてキーワードとして設定した語句

キーワード
おかしくない
かも知れない
かも知れません
スプーン曲げ
何となく
自分の目
大なり小なり
誰にでも
超能力特集
当てはまらない
当てはまる
目撃情報

の語の一覧を表7-1から表7-6に示した。

血液型による性格診断に関しては、信奉群には“当てはまる”，“周り”，“友達”，“自分”の語句が認められる一方で、非信奉者には，“当てはまる”，“友達”，“自分”の語句が認められる一方，“当てはまらない”の語句が認められる。これは、信奉、非信奉のいずれの立場を採るにおい

表6 Tiny TextMiner において同義語として設定(統一)した語句

統一	同義語
私達	私たち 我々 自分たち 自分達
自分	自分自身
友達	友人
祖母	おばあちゃん
祖父	おじいちゃん
母	母親 お母さん
父	父親 お父さん
たくさん	多数 無数
様々	色々
想像上	空想上
かも知れない	かも知れません
テレビ	テレビ番組
マスメディア	メディア
血液型性格診断	血液型占い
A型	A
B型	B
O型	O
AB型	AB
マンガ	漫画 コミック
星	惑星
生命体	生物 生き物
マジック	手品
トリック	タネ 仕掛け
手相	手相占い
占い師	占い師さん
星占い	星座占い
キリスト	イエス イエス様
神様	神
仏様	仏

ても、周囲の友人や自分の性格が血液型による性格診断で典型的に言われるような性格に当てはまっているか否かという具体的な事例がベースになっている可能性を示唆している。また、非信奉者においては“環境”，“形成”という語句が認められるように、性格が環境等の他の要因によって決定されるはずだという考え方が見て取れる。さらに、非信奉者では，“誰にでも”，“一般的”という語句が認められ、血液型による性格診断において典型的に言われるような性格は、そもそも一般的で誰にでも当てはまるものであるとの認識がされているようである。さらに、非信奉者においては“先生”という語も認められ、教育によって、非信奉の立場を採ることになったことが窺われる。宇宙人の存在に関しては、信奉者で“広い”，

表 7-1 理由頻出語（血液型による性格診断）

信奉群		非信奉群			
血液	38	性格	61	ネタ	4
性格	26	血液	60	面白い	4
自分	25	人	40	特徴	4
人	21	無い	27	難しい	4
多い	15	診断	26	形成	4
当てはまる	13	自分	25	時	4
B型	11	A型	25	他	4
本	11	B型	18	世の中	4
部分	11	几帳面	16	パターン	4
A型	10	人間	16	自身	3
O型	8	O型	14	感じ	3
診断	8	私	13	科学的 根拠	3
友達	8	当てはまる	13	友達	3
関係	8	環境	9	マイペース	3
所	7	4つ	9	私 自身	3
無い	7	それ	9	科学的	3
私	7	大雑把	8	先生	3
AB型	5	当てはまらない	8	一致	3
周り	4	根拠	8	悪い	3
行動	4	ない	8	これ	3
何	4	本	8	占い	3
説明書	4	部分	7	説明	3
特徴	4	多い	7	全員	3
テレビ	3	種類	6	経験	3
自身	3	タイプ	6	当て	3
子	3	誰	6	無理	3
何となく	3	確か	5	日本	3
科学的	3	誰にでも	5	イメージ	3
大雑把	3	良い	5	型	3
時	3	関係	5	様々	3
几帳面	3	理由	5	判断	3
家族	3	自己 中心的	5	逆	3
それ	3	一般的	5	意味	3
すごい	3	AB型	5	影響	3
		テレビ	4	正直	3
		かも知れない	4	話	3
		所	4		

“星”，“おかしくない”，“たくさん”の出現件数が多く，「宇宙は広く，たくさんの星が存在するので，その中では宇宙人（生命体）が存在しな

いと考える方がおかしい」という考え方が信奉につながっていることが示唆される。また，信奉群においてのみ，“楽しい”，“面白い”，“夢”が認

表 7-2 理由頻出語（宇宙人の存在）

信奉群				非信奉群	
宇宙	81	面白い	6	無い	29
人	56	生命	5	人	21
地球	43	良い	5	宇宙	18
広い	37	所	5	テレビ	13
星	32	可能 性	5	生命 体	10
生命 体	30	これ	5	存在	9
存在	25	夢	5	地球	8
人間	22	それ	5	写真	7
おかしくない	21	生活	5	自分	5
無い	17	否定	4	かも知れない	4
どこ	14	発見	4	技術	4
テレビ	12	別	4	自分の目	4
他	12	私	4	星	4
UFO	11	未知	4	事	4
何	11	番組	3	UFO	3
たくさん	11	特集	3	証明	3
不思議	10	大きい	3	番組	3
ない	10	何となく	3	目	3
地球人	10	形	3	証拠	3
私 達	9	目撃	3	それ	3
自分	8	様々	3	興味	3
映像	8	環境	3	想像	3
楽しい	8	物	3		
世界	8	放送	3		
おかしい	7	誰	3		
かも知れない	6	小さい	3		
火星	6				

められ、“信じている”というよりも、“信じた方が夢があるし面白い”といった娯楽的な意味合いが感じられる。一方で、非信奉群においては、“自分の目”という表現が認められ、「実際に見ていないものは信じられない」とする立場が窺われる。

超能力の存在に関しては、非信奉群においては、“スプーン曲げ”、“スプーン”、“トリック”、“マジック”の出現件数が多く、“超能力=スプーン曲げ”と捉えた調査対象者が、それは単なる“マジック”や“トリック”の類であると見なし、非信奉の態度を示したことによると考えられる。

さらに、非信奉群においては宇宙人の存在に対する場合と同様に、“自分の目”という表現が認められ、「実際に見ていないものは信じられない」とする立場がここでも表明されていると考えられる。また、信奉群でのみ“面白い”、“楽しい”が認められ、ここでも宇宙人の存在に対する信奉と同様、“信じた方が楽しい”と考える娯楽的な態度が窺える。

占いに関しても信奉群でのみ“楽しい”の語句が認められることが特徴的である。すなわち、占いを楽しむことが、占いを信奉する立場を作り出している可能性が示唆される。また非信奉群にお

表 7-3 理由頻出語（超能力の存在）

信奉群		非信奉群	
人	41	能力	33
能力	34	無い	28
テレビ	19	人	20
力	14	トリック	17
不思議	13	テレビ	12
人間	13	力	12
無い	10	何	11
ない	8	自分	10
すごい	8	マジック	10
自分	7	目	6
かも知れない	7	自分の目	6
何	7	スプーン曲げ	6
おかしくない	6	スプーン	5
存在	6	人間	4
能力 者	6	一緒	4
私	6	世界	4
時	5	嘘	4
面白い	5	身近	3
世の中	5	かも知れない	3
証明	4	あれ	3
脳	4	どこ	3
所	4	番組	3
他	4	感じ	3
楽しい	4	無理	3
それ	4	生	3
動物	3	それ	3
本当	3	存在	3
良い	3	私	3
様々	3	すごい	3
マジック	3		
発揮	3		
トリック	3		
たくさん	3		
科学	3		
広い	3		
嘘	3		
セロ	3		
説明	3		

表 7-4 理由頻出語（占い）

信奉群		非信奉群	
占い	39	占い	52
良い	25	人	22
人	12	無い	20
楽しい	9	自分	18
時	8	良い	15
悪い	8	星座	13
それ	8	悪い	9
気	7	テレビ	8
自分	6	血液	8
手相	6	多い	6
テレビ	5	嫌	6
ない	5	未来	5
雑誌	5	ない	5
星座	4	人生	5
性格	4	時	5
本	4	様々	5
血液	4	当てはまる	5
私	4	誰	5
運勢	3	手相	4
運命	3	運命	4
所	3	行動	4
行動	3	根拠	4
何となく	3	自身	3
気分	3	かも知れない	3
参考	3	方法	3
占い師	3	感じ	3
多い	3	誰にでも	3
テンション	3	所	3
意味	3	気分	3
都合	3	他	3
気持ち	3	たくさん	3
好き	3	本	3
すごい	3	これ	3
		楽しい	3
		都合	3
		存在	3
		気	3

ける“自分”の出現頻度の高さは、運命を自分でコントロールするものであると考える立場を反映しているかもしれない。

霊の存在に関しては、非信奉群において“怖い”の出現率が高いことが特徴的である。すなわち、少数派である霊の存在の非信奉群は、“信じてい

表 7-5 理由頻出語（霊の存在）

信奉群				非信奉群	
人	43	強い	5	無い	21
霊	33	事	5	霊	15
自分	20	説明	5	怖い	11
存在	20	この世	5	人	10
無い	18	おかしい	4	存在	7
怖い	15	子	4	自分	5
写真	15	先祖	4	何	4
体験	14	周り	4	目	3
心霊	13	所	4	自分の目	3
私	13	目	4	証明	3
ない	11	嫌	4	体験	3
靈感	11	世界	4	良い	3
話	10	それ	4	所	3
テレビ	9	心霊 スポット	4	科学 的	3
友達	9	思い	3	イメージ	3
かも知れない	7	良い	3	私	3
魂	7	否定	3	時	3
身近	6	人間	3		
時	6	悪い	3		
守護	5	これ	3		
何	5	多い	3		
金縛り	5	おかしくない	3		
誰	5				

ない”というより“怖いので信じたくない”という態度をとっていることが示唆される。これは、宇宙人の存在や超能力の存在、あるいは占いに対する信奉群に認められた、“信じている“というより“楽しいし夢があるので信じたい”という態度と対照的な態度であると考えられる。

一方で霊の存在の信奉群においては“守護”や“先祖”という語句が認められ、霊という存在を必ずしも怖いものではなく（“怖い”の語句も認められるが）、先祖などが姿を変えて自分を守ってくれているもの、保護してくれているもの、と捉えていることから、この想いが信奉につながっている可能性もある。

神仏の存在に関しては、信奉者において“祖母”や“母”といった語句が認められ、身内の信奉が

語られることによって受け継がれている可能性が示唆される。さらに、信奉群においてのみ“抛り所”という語句が認められ、これは、心の抛り所として、神仏の存在を肯定“したい”気持ちの現れであるとも考えられる。霊の存在についてはネガティブなイメージが存在を否定したい気持ちに、神仏の存在についてはポジティブなイメージが存在を肯定したい気持ちにつながっていることが対照的である。

また、宇宙人の存在、超能力の存在、霊の存在の信奉・非信奉につながる理由の中には“テレビ”が、血液型による性格診断と占いの信奉・非信奉につながる理由の中には“テレビ”と“本”の両方が挙げられていることは、それぞれの対象に対する態度を構築する根拠となるメディアの差異を

表 7-6 理由頻出語（神仏の存在）

信奉群		非信奉群	
神様	30	神様	25
時	18	神仏	20
何	18	無い	16
存在	18	存在	16
自分	17	人	14
良い	16	仏様	12
神仏	15	何	11
人	13	良い	9
仏様	12	時	9
無い	11	人間	9
私	9	心	7
それ	7	所	6
悪い	6	都合	6
お願い	6	神頼み	6
心	5	自分	5
霊	5	ない	5
宗教	5	お参り	5
ない	5	かも知れない	4
人間	5	お願い	4
神社	5	私	4
お参り	5	証明	3
理由	5	力	3
先祖	4	宗教	3
抛り所	4	努力	3
これ	4	神社	3
都合	4	平和	3
祖母	4	興味	3
神頼み	4		
手	3		
最後	3		
母	3		
キリスト	3		
実家	3		
所	3		
否定	3		
目	3		
仏壇	3		
仏教	3		

表しているとも考えられる。

本研究においては、信奉率そのものに対して、

あるいは信奉間の相関に関しては性差の存在が示唆された。しかしながら、男性の調査対象者が少ないため、信奉理由の分析においては性差を分析するまでにいたらなかった。今後、性差も含めて、こうした自由記述データをさらに詳細に検討することが期待される。

引用文献

- 上瀬由美子・松井豊 (1996). 血液型ステレオタイプ変容の形 —ステレオタイプ変容モデルの検証— 社会心理学研究, 11, 170-179.
- 川上正浩・小城英子・坂田浩之 (2009). 不思議現象を信じる“理由”不思議現象に対する態度 (19) 日本社会心理学会第 50 回大会日本グループ・ダイナミックス学会第 56 回大会合同大会発表論文集, 1046-1047.
- 川村信一 (1956). 心霊現象に対する態度の研究 室蘭工業大学研究報告, 2, 163-171.
- 菊池 聡 (1995). 不思議現象が開く心理学への扉 菊池 聡・谷口高士・宮元博章 (編著) 不思議現象なぜ信じるのか こころの科学入門 北大路書房 pp. 1-18.
- 菊池 聡 (1998). 超常現象をなぜ信じるのか 思い込みを生む“体験”のあやうさ 講談社
- 小城英子・川上正浩・坂田浩之 (2006). 不思議現象に対する態度の探索的研究 聖心女子大学論叢, 107, 19-56.
- 小城英子・坂田浩之・川上正浩 (2008). 不思議現象に対する態度；態度構造の分析および類型化 社会心理学研究, 23, 246-258.
- 松井豊・上瀬由美子 (1994). 血液型ステレオタイプの構造と機能 聖心女子大学論叢, 82, 89-111.
- 岡本淑人 (1988). 迷信・格言への態度と行動 心理学研究, 59, 106-112.
- 坂元 章 (1995). 血液型ステレオタイプによる選択的な情報使用 —女子大学生に対する 2 つの実験— 実験社会心理学研究, 35, 35-48.
- 佐藤達哉 (1993). 血液型性格関連説についての検討 社会心理学研究, 8, 197-208.
- 渡辺席子 (1994). 血液型ステレオタイプ形成におけるプロトタイプとイグゼンブラの役割 社会心理学研究, 10, 77-86.

Reasons university students believe in paranormal phenomenon (1).

Osaka Shoin Women's University

*Masahiro KAWAKAMI, Eiko KOSHIRO, &
Hiroyuki SAKATA*

ABSTRACT

Paranormal phenomenon is defined as unusual experiences that lack a scientific explanation and are believed in by some people. The purpose of this study was to investigate the reasons why university students believe in paranormal phenomenon. Six phenomena: "ABO Blood-Groups Typology", "Existence of extraterrestrial life", "Existence of supernatural power", "Fortunetelling", "Existence of spiritual entities", and "The gods and Buddha", were selected and participants were asked to respond whether they believe it or not that phenomenon, and provide the reason in free format.

Hundred and sixty-one university students were participated in this questionnaire study. Using text-mining procedure, free description data was analyzed. The results showed that there were some differences between believers and non-believers. The results were discussed in the light of difference of media they referred in believing paranormal phenomena.

Keywords: paranormal phenomenon, belief, reason, free descriptions